

- 3 宮地直一博士資料について

宮地直一博士資料調査

平成14年12月17日、東京都世田谷区北沢の宮地直一博士邸において、博士の事績に造詣の深い岡田莊司氏・菊田龍太郎氏の助力を得て蔵書・蔵品の調査を行い、平成15年2月22日よりその搬出作業を行った。総点数は現在調査中であるが、蔵書には和装本・洋装本・小冊子、蔵品には神像・人形・軸物・鏡・絵馬などが含まれており、これらの資料は國學院大學日本文化研究所で保管・管理することとなった。

1. 宮地直一博士と大場磐雄博士

宮地直一博士(1886～1949)は、近代における神道史学の第一人者である。東京帝国大学を卒業後、明治42(1909)年に内務省に入省して神社考証を担当し、明治神宮造営局参事、内務省神社局考証課長などを歴任した。神社行政・文化財保護行政において活躍すると同時に、國學院大學や東京帝国大学においても講義を行い、のちに東京帝国大学教授となって神道講座を担当した。そして、終戦後の昭和21(1946)年3月に東京帝国大学を退官したのち、昭和24(1949)年に長野県穂高町で没した。

宮地博士の研究は、実証主義に基づいた精緻なものであり、神道史学の先駆的な業績と位置づけられ、現在においても高い評価を得ている。当時の内務省神社局考証課には、文献史学や考古学などを専門とする若手の研究者が在籍しており、大場磐雄博士もその中の一人であった。

大場磐雄博士は、大正14年(1925)に内務省神社局考証課に嘱託として勤務するようになった。このときの考証課長が宮地博士である。その後、大場博士は神社との接触が多くなり、神社の文化財や神社祭祀の源流の調査など、神社・神道を研究のひとつの柱とするようになる。のちに大場博士は祭祀遺跡の研究を中心として神道考古学を確立するが、神社局考証課における宮地博士の指導が大場博士の学問的基礎の構築に影響を与えたとも考えられる。

2. 宮地直一博士資料について

現段階は初期調査の段階であるが、宮地博士邸母屋の応接用玄関、玄関隣接廊下、母屋の1階応接間、2階の1部屋に蔵書(洋装本)及び天神像等を確認した。また、書庫の1階と2階には作り付け書架が設置され、そこに宮地博士自身が整理・分類したままの状態の蔵書(和装・洋装本)、文化財調査報告書、軸物、葉書類、自筆原稿、調査時に撮影した写真や乾板などを確認した。特に、書庫の中は当時の調査を物語る貴重な資料が多く存在していた。また、天神関係の資料(写真・神像・軸物・和書)は質・量ともに、個人蔵のものとしては特筆すべきものがある。

これらは、今後の整理・分析によって、高い評価がされていくものと考えられる。さらに、現在の研究の中では十分になされているとはいえない、研究史における宮地博士の位置づけ、宮地博士を中心とする大場博士ら研究者間の交流など、明らかにされるであろう課題は多い。また、宮地博士資料は大場博士資料との研究上の関係が大きいことも推測され、今後の宮地博士資料の整理によって大場博士資料の研究の幅も広がっていくものと考えられる。

(田中秀典)



宮地直一博士邸玄関



宮地博士書庫二階の状況



宮地博士天神像コレクション



宮地博士所蔵ガラス乾板類



宮地博士書庫の和書籍



書庫内調査中の岡田教授